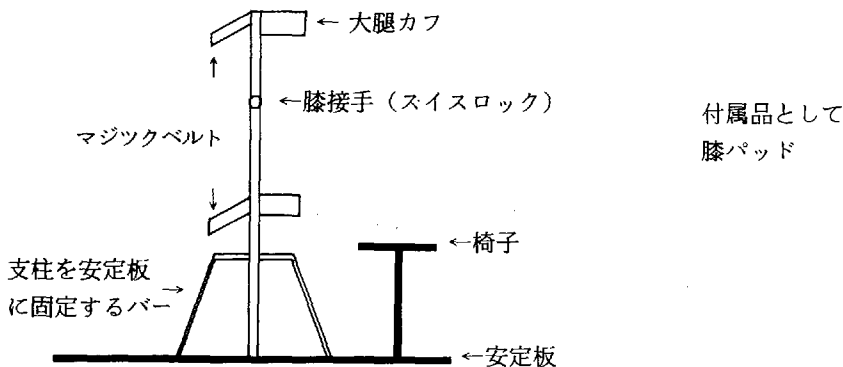


脊柱変形に対する予防対策

国立療養所西多賀病院

根立千秋 千葉 隆

DMP児の脊柱変形は歩行不能時からの進展が急速であり、又その後構築性のものへと進んでいくことが知られている。このような脊柱変形に対する予防策としては歩行能力の維持延長をはかることが重要であると思われる。又歩行不能後もできるだけ起立姿勢を維持することが、感覚運動系を介し姿勢調整に役立つものと思われる。このような見地より昨年は市販の起立台を使い歩行の安定性やスピードについて改善がなされることを確かめた。本年は市販の起立台が膝や胸部を抑制帯などで固定して起立させるので、それを一歩前進させスタビライザー型式の起立台を10台試作した。(図1)



これは安定板の上に長下肢装具を取りつけたもので、足関節は固定、膝関節はリングロックを使用している(リングロックは着脱が不便なため現在はスイスロックを使用している)。後方には装着用の椅子がとりつけてあり、安定板、長下肢装具、椅子の三部にとりはずしができ、持ち運びが便利になっている。又長肢装具の支柱は成長期の子供のため伸縮式としてある。装着対象者は10名でデュシアンヌ型、年齢は8才から13才である。このうち stage 2 が7名、stage 6 が3名である。装着起立した状態では膝と足部が安定するため全員が腰椎の前弯、又側弯も骨盤レベルが水平になるため改善がなされた。現在までの経過をみると stage 6 のうち2名が起立台使用不能となり、stage 2 の1名が stage 3 に、2名が stage 6 に移行している。残り5名は平変である。起立台使用不能となった2名を他の stage 6 の3名とADL総点、ROM、躯幹下肢の徒手筋力の平均で比較してみると、平能者はADLが30点台、他は40点台、筋力も30%台と40%台とでわずかながら落ちこみが見られる。ROMでは平能者は他よりも股膝、足関節に伸展あるいは背屈制限が著明でありこれが起立平能となった直接の原因であると思われる。なお、この2

名は、stage 6 の時に起立台を使用したのもっと早い時期から装着していれば良かったと思われる。起立台使用が可能であった期間は1名が8ヶ月、他の1名が5ヶ月であった。次に起立台装着状態で矢状面より全員を観察してみるとstage の高いもの程耳重よりおろした垂線は股、膝、足関節の後方を通るようになる。又stage が進行するにつれてこの傾向が強くなってくる。このためアライメントがみだれてきてstage 6 のものでは大腿カフによりかかりすわったような姿勢をとり、その部に疼痛を訴えるようになった。以上のようにスタビライザー型起立台を試用した結果次のようなことがわかった。

1. 全例が装着した状態では脊柱の前弯や側弯が改善された。
2. Stage 6 でも起立台使用により起立可能であったが、その期間は8ヶ月と5ヶ月であった。不能となった原因はROMの制限によるところが大きいと思われるので今後の起立時間や1日の回数を検討しなければならない。(現在1日1回で約20分間)。
3. Stage の進行と共に矢状面でのアライメントが乱れるので、今後できるだけ正常アライメントに近づけるようにし、又 Stage 6 以降でも起立可能の方向にもっていくよう検討しなければならない。

4、筋ジストロフィー側弯の自然経過と発生要因について とくに心理的面からの検討

徳島大学

松 家 豊

徳島療養所

早 田 正 則

進行する身体的障害のうちで側弯は心肺機能、ADL、介護などに及ぼす影響が大である。更に希望のない本症の予後はパーソナリティの形成、精神的発達にも影響を及ぼす。今回、PMD側弯の予防的見地から側弯の進行と心理的な面での関連性があるかどうかを知る目的で側弯の経時的変化と心理的検査所見の変化について検討を加えた。

側弯は過去10年間にわたり定期的にX線によって追跡した。進行例と非進行例に区分した。心理学的検査は矢田部、ギルフォード性格検査(Y-G)を昭和45年9月、49年9月、53年1月に実施した。Y-G性格プロフィールのうち向性の点をとりあげた。側弯進行例ではその進行前と進行過程において比較した。非進行例では進行例とほぼ同年代のものを対象とした。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

DMP 児の脊柱変形は歩行不能時からの進展が急速であり、又その後構築性のものへと進んでいくことが知られている。このような脊柱変形に対する予防策としては歩行能力の維持延長をはかることが重要であると思われる。又歩行不能後もできるだけ起立姿勢を維持することが、感覚運動系を介し姿勢調整に役立つものと思われる。このような見地より昨年は市販の起立台を使い歩行の安定性やスピードについて改善がなされることを確かめた。本年は市販の起立台が膝や胸部を抑制帯などで固定して起立させるので、それを一歩前進させスタビライザー型式の起立台を 10 台試作した。(図 1)